

外国語専科としての現状と展望

川崎市立王禅寺中央小学校

今野 愛

川崎市王禅寺中央小学校

▶ 児童数 511名

▶ 学級数 24学級

(特別支援学級 6 を含む)

川崎市王禅寺中央小学校

▶ 専科教員

2名（音楽専科・外国語専科）

※ 全学年にて専科教員による授業/交換授業
を実施

交換授業...学級担任が担当教科の指導に
当たること

外国語専科について

- ▶今年度から外国語専科を配置
- ▶主にALTとのTTによる指導
(前期週2回、後期週3回の配置)
- ▶全学年の外国語活動・外国語科を担当

外国語専科について

- ▶ 1, 2年生の外国語活動（英語活動）
1年生5時間、2年生5時間実施
- ▶ 1, 2年生の指導計画は川崎市の外国語・国際教育研究会で作成したものを参考にしている
- ▶ 3, 4年生はLet's Try! 1, 2を使用
- ▶ 5, 6年生はNew Horizon Elementary 5, 6を使用

現状

成果

- 教材研究に専念することができる
⇒ より良い授業作りを目指した授業準備
- 一貫した指導や評価を行うことができる
⇒ 指導と評価一体化

成果

- 複数の教員で児童に関わることが出来る
⇒ 児童の安心感につながる。児童理解が深まる。
- 小中連携（川崎市の実践）
⇒ 中学校進学後にギャップを感じにくい

課題

- 時間割調整の難しさ
 - ⇒ 学校行事等による変則的な時間割への対応
- 教科横断的指導の難しさ
 - ⇒ 担当外教科の進捗状況の把握

課題

- 学級経営、児童指導の時間の確保の難しさ
⇒ 学年、学級経営方針の共有
- 深い児童理解に基づいた指導の難しさ
⇒ 的確なタイミングでの指導

今後の展望

- ▶ 専門性の高い教員が指導に当たることで、児童の主体的、対話的な深い学びの実現にもつながる。しかし、授業を行う教員が頻繁に変わることで、授業に集中して取り組むことが難しくなる児童がいたり、個に応じた指導が難しくなる状況が出てきたりすることが考えられる。そのため、発達段階に応じて、必要な配慮を十分に行ってから実施に当たることが重要。

今後の展望

- ▶ 小学校での専科教員は教科以外の指導を行う機会も多いと実感している。そのため、小学生の実態をよく知る教員が行うのが良い。小学校での学級経営、児童指導の経験のある教員の教科の専門性を高める機会があると良い。